

人口減少対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 平成31年 3 月 19 日 (火)
午後 1 時 00 分 開会
午後 2 時 59 分 閉会
- 2 場 所 第 3 委 員 会 室
- 3 出 席 委 員 委 員 長 奥 村 忠 俊
副 委 員 長 上 田 倫 久
委 員 足 田 仁 司、伊 藤 仁、
嶋 崎 宏 之、清 水 寛、
田 中 藤 一 郎、椿 野 仁 司
- 4 欠 席 委 員 なし
- 5 説 明 員 (別紙のとおり)
- 6 傍 聴 議 員 なし
- 7 事 務 局 職 員 主 幹 兼 庶 務 係 長 前 田 靖 子
- 8 会 議 に 付 し た 事 件 (別紙のとおり)

人口減少対策等調査特別委員長 奥村 忠俊 ㊟

人口減少対策等調査特別委員会 次第

日 時：平成 31 年 3 月 19 日(火)13:00～

場 所：第 3 委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 平成 31 年度予算について

戦略 A（移住定住促進）・戦略 B（結婚・多子出産促進）

【政策調整部】 政策調整課

【環境経済部】 UI ターン戦略室

【健康福祉部】 ハートリーフ戦略室

(2) その他

4 閉 会

人口減少対策等調査特別委員会名簿

【委員】

平成31年3月19日現在

| 職名 | 氏名 |
|------|--------|
| 委員長 | 奥村 忠俊 |
| 副委員長 | 上田 倫久 |
| 委員 | 足田 仁司 |
| 委員 | 伊藤 仁 |
| 委員 | 嶋崎 宏之 |
| 委員 | 清水 寛 |
| 委員 | 田中 藤一郎 |
| 委員 | 椿野 仁司 |

8名

【当局】

| 職名 | 氏名 | 職名 | 氏名 |
|---------------------------|--------|-------------------------------|-------|
| 政策調整部長 | 土生田 哉 | 政策調整課長 | 永井 義久 |
| | | 政策調整課長補佐 | 井上 靖彦 |
| 環境経済部長兼 UIターン戦略室長 | 上田 篤 | 環境経済課参事兼UI ターン戦略室長補佐 | 柳沢 和男 |
| | | 環境経済課主幹 兼UIターン戦略室主 幹兼係長 | 若森 洋崇 |
| 健康福祉部長兼 ハートリーフ戦略室 長 | 久保川 伸幸 | ハートリーフ戦略室 長補佐兼係長 | 三宅 徹 |
| | | | |

8名

【議会事務局】

| 職名 | 氏名 |
|----|-------|
| 主幹 | 前田 靖子 |

17名

午後1時00分開会

○委員長（奥村 忠俊） それでは、少し時間が早いですけれども、皆さんおそろいでございますので、ただいまから人口減少対策特別委員会のほうに入りたいと思います。

まず、3月定例会中に開催の常任委員会、特別委員会から会議録を市議会ホームページで公開することになっています。つきましては、委員の皆さん、当局の皆さんにおかれましては、次の2つの点にご留意をお願いします。

1つ目は、数字や年月日などについて、言い間違いのないよう正確をお願いします。2つ目は、個人情報や未確定事項などについて、不適切な発言がないよう慎重を期していただきたいと思います。

それでは、定刻になりましたので、ただいまから人口減少対策等特別委員会を開催させていただきます。

まず、本日の委員会に欠席届のありましたのは、これはないですね。（「はい」と呼ぶ者あり）

次に、当局から説明補助員として井上政策調整課課長補佐、若森環境経済課主幹兼UIターン戦略室主幹兼係長、三宅ハートリーフ戦略室室長補佐兼係長を出席させたいとの申し出がありました。許可をいたしておりますのでご了承願います。

一言ご挨拶申し上げたいと思います。

前回、1月の28日の委員会で、豊岡市内で最も人口減少が激しい竹野町と但東町の現状及び取り組みについて説明を受け、協議を進めてまいりました。特に竹野町では、プロジェクト事業を中心といいますか、中でも川湊再生プロジェクトに力を入れてるというお話でございましたし、但東町でもプロジェクト事業、特に教育民泊事業が中心に行われてることも報告をお聞きしました。

今回の委員会では、平成31年度予算についての説明及び昨年からの継続事業として、本年度取り組みや目指すべき課題などについて説明を願いたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

それでは、協議事項に入りたいと思います。

まず、平成31年度予算について、戦略A（移住定住促進）・戦略B（結婚・多子出産促進）。

まず、戦略Aの移住定住促進、それから、2つ目の戦略B、結婚・多子出産促進を一括して議題といたします。説明を聞いた後で質疑に入りたいと思いますので、それでは、順次説明をお願いします。

それでは、永井課長。

○政策調整課長（永井 義久） 初めに、政策調整課のほうで戦略目的Aに係ります新規、それから拡充事業につきまして、主な概要について説明をさせていただきます。

お配りしています平成31年度地方創生事業の手段別予算概要をごらんください。1ページ、2ページをごらんいただきたいと思います。

左の部分につきましては主要手段（2桁）、それから具体的手段というふうになっておりまして、右と対比するような形で、その手段にかかわる事業が上がっております。今回、新規拡充事業ということになりますので、ご了承をお願いしたいと思います。

まず、2ページの13番、まちのサードプレイス、こちらのほうは新規事業になります。サードプレイスという意味でございますけれども、ファーストプレイスが自宅などの生活を営む場所、セカンドプレイスが職場、サードプレイスはコミュニティということになります。事業内容につきましては、中心市街地で移住希望者、それから移住者、若者が町の人たちとつながる場所、コミュニティなどの場所を通じて、市と市民が協働して構築するというような委託事業になります。内容につきましては、まちのサードプレイス機能をつくることと、移住相談窓口の設置ということになります。

その2つ下、15番です。豊岡靴ブランド育成支援ということです。300万円の予算です。事業内容につきましては、兵庫県靴工業組合が豊岡靴ブランドの価値向上のために実施する事業に対して補助を行うというものでございます。東京のK I T T E丸の内店について、豊岡靴のブランドの情報発信機能を強化するために、ブランディング専門家による分析、提案といった魅力ある展望づくりを行うと

いうものが一つ、それから、豊岡鞆東京展示会の開催、豊岡鞆フェアの開催ということでございます。

次に、22番、スマート農業の推進、こちらは拡充になります。従来の水田センサーの設置に係る委託、それから、鉄コーティング湛水直播という事業に加えて、スマート農業技術の導入支援ということで、補助金を新規で100万円つけております。比較的少額な投資で、誰でも導入しやすいような、省力化につながるスマート農業の導入を農家に支援する補助金をつくるということです。限度額は50万円で、補助率は対象経費の2分の1ということでございます。

続きまして、28番、内発型産業育成Ⅰ、チャレンジ応援の仕組みの新設ということです。こちら新規事業になります。1,236万1,000円でございます。コワーキングスペースにビジネスに関する総合相談機能を新設して、中小企業のチャレンジを応援するというものです。

1つ目は、総合相談機能整備すること、相談員の配置、月4日の相談日を開設しまして、意欲ある中小企業者、それから、起業を考える若者、女性等を重点的に指導するというものでございます。もう一つは、外部アドバイザーを派遣するという内容です。

続きまして、その1つ下、29番、内発型産業育成Ⅱのステップアップ・創業補助でございます。3,597万2,000円。事業内容につきましては、ステップアップ支援事業の補助金が2,000万円、これは営業利益や付加価値などの目標を掲げて、成長を目指す企業の新製品やサービスの開発、販路の拡大を要する経費を支援するというものです。もう一つは、創業支援事業補助金の1,500万円でございます。創業事業承継に取り組む若者、女性のスタートアップに要する経費を支援するという内容になっております。

それから、1つ下、政策アドバイザーの設置（3名）、926万6,000円でございます。既存の事業、2つございまして、ソーシャルビジネスのコミュニティビジネスに関する分野のアドバイザーと、まちづくりにおけるデザイン全般に関する分野

のアドバイザーに加えて、データ分析、それからマーケティング全般に関する分野でアドバイスをいただくというようなものになっております。

それから、31番、ジェンダーギャップの解消推進ということで、726万2,000円でございます。担当、政策調整課になっておりますけれども、新年度に新しい組織でありますワークイノベーション推進室のほうで、この事業は行うことになっております。主な内容につきましては、シンポジウムを実施して、その中身につきましては講演とパネルディスカッションというようなことになっております。

もう一つは、ジェンダーギャップ解消に係ります戦略策定に向けた意識調査、アンケート調査を実施するというものです。その中でアドバイザーを設置しますことと、アンケートを実施することになっております。そういった基礎調査を行いまして、戦略は2020年にスタートさせたいというふうに考えております。

続きまして、34番、コウノトリ野生復帰の推進、こちらは1,311万2,000円拡充の事業になります。5点ほどございまして、バードフェアの出版、こちらはイギリスで行うという内容です。キーパーソンを豊岡に招聘して、海外のメディアに情報発信に力を入れていこうという内容になっております。それからドキュメンタリー映画「KOUNOTORI」の権利の買い取り、コウノトリ野生復帰の海外情報発信やパンフレットの作成でありますとか、国立台湾大学の農業ミュージアムの企画展の共同実施というものが、新規の事業として入っております。

ページめくっていただきまして、3ページ、4ページをごらんください。少し飛びますが、中段あたりです、46番、（仮称）豊岡国際演劇祭共同開催というところで、1,610万1,000円、こちらは新規事業になります。事業内容につきましては、実行委員会に対する負担金と事務的経費がございます。

まず、1つ目でございますけれども、第0回、仮称

でございますが、豊岡国際演劇祭に対する負担金等でございます。こちらは703万2,000円でございます。市内の文化施設等において演劇等を上演して、市内外から誘客をするというプレ事業になります。場所等はアートセンター、それから出石永楽館等を検討しております。

それから、2つ目でございます。(仮称)国際演劇祭に関する構想策定ということで、810万円の負担金を予定しております。これは、2020年以降に、第1回の演劇祭を行うというようなことになっておりまして、その理念の確立でありますとか、民間資金の導入、そういったものを視野に入れた推進体制を構築するための構想策定を予定しております。

最後でございます。52番、アーティスト・クリエーター移住等促進でございます。これは拡充でございます。2,280万5,000円です。2つございまして、1つ目は劇団の拠点施設整備に係る支援ということで、日高町の商店街組織と青年団の運営組織であります有限会社アゴラ企画が国の補助制度を活用しまして、拠点整備を予定されておりますので、国の補助が採択された場合に、県とともに市も随伴して補助するというような内容になっております。

もう一つは、劇団員の移住支援というところで、豊岡での生活住まい、仕事等の生活情報を提供したり、相談を受けるような機会を設けるということでございます。

以上が、定住、それから移住促進に関する戦略の全体の概要でございます。

戦略目的Bにつきましては、ハートリーフのほうから主な概要を説明させていただきます。

○委員長(奥村 忠俊) 次は、柳沢参事。

○UIターン戦略室室長補佐(柳沢 和男) それでは、続きまして、UIターン戦略室の関係についてご説明をさせていただきます。資料の2ページをごらんいただきたいと思っております。

事業ナンバーでいいますと32番でございます。ワークイノベーション推進ということで、1,02

7万円という予算を上げております。こちらにつきましては、本年1月に戦略を策定いたしました。この戦略につきましては、前回のこの委員会でも概要を申し上げて、ご説明をさせていただいたところで、その戦略に基づきまして、いよいよ新年度、事業を展開していくということで、事業所の経営者の意識改革でありますとか、人事担当者の意識改革、あるいは管理職、従業員、女性従業員のキャリアの形成支援というふうな形で、それぞれポジションであるとか、性別による違いがあるわけですが、そういった方々に、それぞれワークショップ等を通じて意識を改革したりというふうな形でやっていきたいというふうに思っております。

いきいきと働く女性がふえていると、ありがたい姿に向かっていきいきと働く女性がふえているというふうな姿を実現するために、それぞれの事業所で働きがいがあって、働きやすいというような環境をつくっていくということでございます。委託料で812万9,000円がありまして、そのほか事務的な経費を含めてこの金額ということになっております。将来的には、そういうふうな事業所になるかどうかということを可視化、見えるようにするというので、先進事業所の表彰制度というようなものをつくっていききたいと、31年度は、その制度設計もしていきたいというふうに思っております。

私からは以上でございます。

○委員長(奥村 忠俊) それでは、次に、健康福祉部、ハートリーフ戦略室。

○ハートリーフ戦略室長(久保川伸幸) 資料のほうは、5ページ、6ページのほうでB戦略について、担当のほうから説明をいたします。

○ハートリーフ戦略室室長補佐(三宅 徹) それでは、6ページをごらんください。B戦略では、ここに掲げております15の事業を来年度実施していく予定です。中でも、拡充、新規の事業が2つございまして、1番の部分と15番の部分についてご説明申し上げます。

まず1番、婚活応援プロジェクトは一とピーです。

この事業は、平成25年度から社会福祉協議会で実施していた婚活応援プロジェクトははとピーを、平成31年度から市主催により実施するものでございます。これまで多くのカップルが誕生している婚活イベントですけれども、そのカップルがなかなか交際に発展しない、あるいは交際に発展しても結婚までいかないという課題がございました。そこで、新年度からは市に専任の結婚支援員を置きまして、希望者には細やかなアフターフォローを行うことにより、成婚数の増加を図っていかうというものでございます。そのために、主催を社会福祉協議会から市に移管するというものでございます。

続きまして、15番、子育てママの活躍機会促進事業についてご説明申し上げます。この事業は2つの事業から成っております。1つは、これまでから実施しておりましたNPO法人ママの働き方応援隊の赤ちゃん先生クラスというプログラムを介在するものでありまして、これは継続事業でございます。もう1点が、子育て中の女性団体へのイベントの開催経費を補助するという新しい補助金を考えております。内容におきましては、子育て中の女性で構成する活動団体が子育て世代なら誰でも参加できるイベントを開催する際に、その経費の一部を補助するというものでございます。なお、補助額は1件につき5万円で、新年度では3件、今掲げております53万5,000円のうち15万円がその補助金に充てたいというふうに考えております。

以上で説明を終わります。

○委員長（奥村 忠俊） それじゃあ説明は終わりました。質疑に入りたいと思います。それぞれ質疑ございましたらよろしく申し上げます。

どなたでも結構ですので、どうぞ。

○委員（伊藤 仁） 委員長、よろしいですか。

○委員長（奥村 忠俊） 伊藤委員。

○委員（伊藤 仁） はとピーに、最後のお話いただきましたのでちょっとお尋ねしたいんですけども、社協からそもそもこっちに、豊岡市が直でやろうと、そう思われたことについてお聞かせいただきたいのと、はとピーで専門職を今度置くというよ

うなお話もあったかと思えます。どういった方なのか、どういった経験をお持ちの方なのか、その職員についてお話をいただきたいのと、3点目としまして、はとピーに参加される要綱、年齢制限等と、はとピーに参加する要件についてもお聞かせください。以上、3点お願いします。

○委員長（奥村 忠俊） 三宅さん、どうぞ。

○ハートリーフ戦略室室長補佐（三宅 徹） 市に直営でしようと思った理由ですけれども、先ほども少し触れましたが、婚活イベントとしては、はとピーは大変人気がありまして、まず、応募者数が募集人数を切ってしまうようなことはありません。大抵募集人数を超える人気があって、皆さんに多く参加いただいております。そこで、大体12人対12人でイベントを行うのが標準なんですけれども、そのうち3組から4組にカップルができます。ですから、それがうまく交際に発展して結婚すれば何も問題がないんですけれども、その場でカップルはできるんですが、それがなかなか、後で聞いてみると交際に至らなかつたり、あるいは交際に至ってもすぐにだめになってしまって、全然結婚まで至らないというふうな現実、課題がございました。

そういった課題を何とかクリアしようと考えたときには、やはりカップルになった方々に、具体的には、ちゃんと連絡したのかとか、デートをしたのかとかというふうなアフターフォローが必要だというふうに考えたわけです。そのためには、やはり専任の職員を置いて、その職員が対応するような体制をとらないといけない、そう考えたときに、社会福祉協議会が行う場合は補助金で行って開催していただきましたから、市がそこまで指示をするようなことが難しかったわけでありまして。ですので、ここは、やはり市が直営でやって、そして、市に専任職員を置いて行うということになりました。

2つ目のご質問ですけれども、はとピーの専門職はどういった方かというご質問だったと思えます。この方につきましては、実は社会福祉協議会ではとピーを担当していた職員がいますので、その職員を豊岡市に採用して、担当者はそのまま同じ方

に、この専門職に当たってもらって、開催、そして運営をしていこうというふうに考えております。

それから3点目です。参加者に対する年齢制限や要件はどのようになっているかというご質問でした。年齢制限につきましては、はーとピーは男性、女性とも20歳から40歳までとしております。また、そのほかの要件としましては、男性は豊岡市在住、または在勤者、女性については、これは限定をしております。そのような制限をかけております。以上です。

○委員(伊藤 仁) 社協で出してきた専門の担当した職員を豊岡市が雇われたという話でしたけれども、なかなか社協では後のフォローができなから、豊岡市で、今度、後のフォローをしっかりとしようということで雇われたというふうに聞こえたんですけども、同じ職員が担当されるんですよ。

○ハートリーフ戦略室室長補佐(三宅 徹) はい。

○委員(伊藤 仁) そういうことで、その点、何かもう一つ、もう少し説明をいただきたいというのと、参加要件なんですけれども、男性を40歳で区切るんじゃないかと、例えば私の年代でもまだ独身者って結構おるんですよ、僕の年代でまだ1回も結婚してない方がおられます。そういった意味で、以前結婚されてた経験のある方っていうのがおられますし、そうなりますと、もうちょっと男性の年齢を上げてもいいんじゃないかというふうにも考えますし、そのあたりのご意見があればお聞かせいただきたいというふうに思います。以上です。

○委員長(奥村 忠俊) じゃあ座ったままでどうぞ。

○ハートリーフ戦略室長(久保川伸幸) まず最初の、同じ方がそのままこちらに異動というようなイメージ、今のところそういうことで想定をして考えておるわけですが、先ほども言いましたように、社協の中でそこまでのフォローがという体制が、この補助金の事業でやっていただいている、社協としてそういった体制がとれるかっていうと、現実としてはなかなか厳しいというようなこともございました。その担当をしておられる職員としては非常に熱心でもあり、優秀でもあり、思いを持ってこの事

業には望んでおってくれるんですが、なかなか体制の中でそこら辺がキープしにくい。そこを、補助金ではありましたが、実質100パー補助金みたいな形でやっておりましたので、それを市に移行する中で、市の職員も一緒になって、その担当職員もさらに頑張ってもらって取り組みをしていける。今、ボランティア仲間との連携みたいなこともさらにもう少し工夫していける部分もあるんじゃないかというようなこともありまして、総合的に考えると、市に移行していくほうが、より積極的にこの事業が展開できるという思いで、そういうような方向性を考えさせていただいたというのが、まず1つのお答えです。

それから、年齢的な参加者のというところですか。これを考えてみる価値はあるのかなというふうに思いますけれども、一般論として、やっぱり男性も女性も一定20歳から40歳ぐらいまでというところを、例えば50もったの方までオーケーということにしていくと、双方の参加者の思いが一致する場合はいいんですけども、そこがなかなか難しい部分もあるのかなと思いますので、ちょっとそこは課題かな。さらに、そういった年齢の方も含めて、結婚相談所のほうでは年齢制限、特になく対応していただけるのではないかな、よりもっと熱心に、積極的に本当にお見合いというようなところにつながる部分でもありますので、これらの複合的な運用というのがいいのではないかなというふうに思いながら、少しその年齢については課題ということでさせていただきます。

○委員(伊藤 仁) 委員長、よろしいですか。

○委員長(奥村 忠俊) 伊藤委員。

○委員(伊藤 仁) 3回目なんで、もうこれでやめますけど。

○委員長(奥村 忠俊) いえ、どうぞどうぞ。

○委員(伊藤 仁) 今度新たに入れた職員は嘱託であるのか、何歳ぐらいの男性であるのか、女性であるのか、そういったことをちょっと一定教えてほしいのと、あとは、今やりとりしながら思ったのは、バツイチ、バツニの女性の方がおられて、それを専

門的に、さっきの男性の年齢を上げるという募集の中で、女性も一度は失敗したけれども、まだ子供さんもおって大変な思いもあるだろうし、また、結婚の願望もある方も多々あると思うんですよね。そういった方だけを集めたは一とピーですか、やられても、これだったら年齢ちょっと上げれるような気がしますし、そういったやり方の工夫を考えていただきたいというふうに思いますが、いかがですか。

○委員長（奥村 忠俊） どうぞ。

○ハートリーフ戦略室室長補佐（三宅 徹） まず初めのご質問ですけれども、職員につきましては、嘱託で採用いたします。男女の性につきましては女性です。年齢については、現在47歳で、新年度のうちに48歳になられる方になります。

それから、もう1つ、離婚の経験がある方に対してですけれども、まさに議員のおっしゃるとおりだと思います。そういった方々に対する対応というのは、今後の課題というふうに我々も思っております。新しい体制の中で考えていきたいというふうに思っております。

ただ、離婚の経験がある方につきましては、そういった事情があることも承知をしておりますので、例えば今年度でも離婚経験のある方、あるいは離婚経験のある方をパートナーにすることにも理解がある方といったことを条件にして、実際には一とピーの婚活イベントを開催しておりますので、また来年度も、そんなことも企画していきたいというふうに考えております。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） どうぞ。

○委員（伊藤 仁） 以上です。

○委員長（奥村 忠俊） いや、もうないですか。

○委員（伊藤 仁） ほかの方が。

○委員長（奥村 忠俊） じゃあ上田委員、どうぞ。

○委員（上田 倫久） ハートリーフのところです、今、出ておりますので、それに関連するかと思うんですが、私、今年、文教民生委員会のほうに所属させていただいております。この管外視察について、秋田県のほうに行こうかという話をしております。なぜそんなところに行くかということなんですが、

秋田県のところでは、フィンランドのネウボラという出産前から手厚くケアをしていって、妊娠から出産、子育てという一つのシステムをつくっておる、フィンランドのネウボラというシステムなんですけども、それを学びに行こうかというふうに、我々、文教民生委員会は考えております。それを、この但馬の中にちょっと当てはめてみると、但馬の周産期医療センターが安全で安心して子供を産めるということも、この但馬、豊岡にもありますので、そういうところを最大限に活用しながら、いわゆる子育て産前産後サポート事業とか、産後ケア事業とか、妊婦のところについてはないんですけど、ちょっとそこんところはわからないんですが。

○委員長（奥村 忠俊） よろしいか。

○委員（上田 倫久） はい。

○委員長（奥村 忠俊） 久保川部長。

○ハートリーフ戦略室長（久保川伸幸） 今見ていただいております資料6ページのところで、まさにフィンランドのネウボラというのは、日本版ネウボラということで、今、ここの7番にあります子育て世代包括支援センターという機能をつくりなさいということで、それが、いわゆる日本版ネウボラと言われるものであります。それを、この平成29年度から豊岡市においても開設をして、近隣の中では早く取り組んだほうかなという思いをいたしております。その子育て世代包括支援センターも基本型と母子保健型というスタイルがあって、豊岡市では保健型のスタイルでやっております。それが、いわゆる健康増進課の中のおやこ支援室がその機能を持っているということでご理解をいただきたいと思っております。

です。なので、ネウボラ、子育て世代包括支援センターは、豊岡市の場合は健康増進課のおやこ支援室がまさにそのものであります。その中で産前産後のサポートですとか、ケア事業、それから、豊岡病院のほうの周産期とも連携してというようなことやりとりもさせていただく。その宿泊型って書いてある9番のところでは、そういった豊岡病院であったり、八鹿病院であったり、宿泊しながらケアも

していただける、乳房ケアみたいなことも含めて対応する。相談ごとについては乗らせていただいて、ちょっとこれはケアが必要だなという方については、それぞれ一人一人にケアプランをつくって、どういうサービスをその後展開していく必要があるのかということを見ながら、本当に生まれる前から、生まれてしばらくの間までは健康増進課が主体になって取り組みます。その後、発達障害とかいろいろな分野での課題があるということになれば、子供の支援センターですとか、さらに小学校等にもその情報をつないでいながら、切れ目なく対応していくようにということで連携をしていく取り組みをやっているところでございます。

○委員（上田 倫久） いいですか。

○委員長（奥村 忠俊） どうぞ。

○委員（上田 倫久） 今、この予算額のほうでは、この間重複、ナンバー7とか、ナンバー11のところは、全くこれはないんですけど、ゼロ円ということですか。

○委員長（奥村 忠俊） どうぞ。

○ハートリーフ戦略室長（久保川伸幸） ここで、例えば11番はファミリーサポートセンターというのは、これはこども育成課のほうで141万円計上されておって、その下、重複って書いてあるところでバーがあるのは、同じものなんで、あえて書いてないということです。その11番の下の7番で、子育て世代包括支援センターのところのバーも、一番上の7番のところであるんで、同じものなので、あえて数字は紹介してないというだけで、それぞれ事業費は上にあります子育て世代包括支援センターとしての機能の分でいうと97万4,000円、ファミサポにつきましては、実際に小学校のお子さんたちを抱えておられるお母さん方が、お互いに助け合っということで、ちょっとの間だけ見てほしいというときに、お互いの会員の中でやりとりをしていただいて、サービスを提供されているということでございます。

○委員（上田 倫久） わかりました。

○委員長（奥村 忠俊） よろしいですか。

○委員（上田 倫久） はい。

○委員長（奥村 忠俊） どうぞ、ほかに。清水委員。

○委員（清水 寛） ちょっと僕のほうはまた全然違うんですけども、まちのサードプレイスの関係でちょっとお聞きしたいんですけども、今回、新しく新規事業ということで上がってる、2ページの13番ですね。自宅、職場、そのほかの部分でサードプレイスというような発想ではあるんですけども、この部分の取り組みで、今、私がかちょっと思いつくのが、例えば豊劇さんのような形のところというのが、いわゆるそういう発想の部分に当たるのかなと思うんです。ただ、豊劇さんにしても、場所ありきではなくて、やはり人ありきのところで、おもしろい人がいるからいろんな方が集まってくるという形でサードプレイスというような意味合いが成り立っていると思うんで、今回の取り組みの中では、手を挙げてもらって、事業者を決定してやっていくということなんですけども、その辺で、場所、前回、何というんですかね、これが、コワーキングスペース、フラップなんかも恐らく同じような趣旨からスタートしたと思うんですけど、決して今もうまくいっているというような感じじゃないと思うんですけども、同じ過ちを、過ちということではないんですけど、何かなりそうな気がちょっとしたんですけども、その辺でそういう部分での認識っていうのをどう考えてらっしゃるんでしょうか。ちょっとお聞きしたいんですけど。

○委員長（奥村 忠俊） 柳沢さん、どうぞ。

○UIターン戦略室室長補佐（柳沢 和男） 環境経済課のほうも兼務をしておりますので、私のほうからお答えをさせていただきます。

まちのサードプレイスにつきましては、今、移住定住の事業をやってる中で、民間の方がいろいろと移住希望者の方への支援というんですかね、移住に対してのお手伝いというのか、サポートをしていただいているような面も出てきております。ですので、そういった意味で、行政が全て抱えて物事をやるということではなくて、やっぱり民間の力をかりながらやっていけるような仕組みがあるだろうという

ふうに思っております。そういった中で、今、議員おっしゃいましたように、人が一番大切なのかなというふうにも思っておりますので、そういうことができるような人を見つけるというのか、そういった人たちに手を挙げていただいて、この事業を展開していきたいというふうに思っております。

ですので、市が場所をつくっていくというよりは、事業をしていただく方たちの動きに合わせて、市のそういった求める機能を付加できたというふうに思っておるところでございます。おっしゃいますように、うまくいくかどうかということの先行きはすごく気になるとうところでございますので、過去の例を見ながら、上手にできるように進めていきたいというふうに思っております。

○委員長（奥村 忠俊） 清水委員。

○委員（清水 寛） 今おっしゃられたとおりと、移住に対するサポートということで、これをビジネスとしてされてるのか、ボランティアとしてされてるのかというのと、どちらかというボランティアの形なのかなというふうに思うんですけど、今回、補助金の場合は交付対象額2分の1ということで、要はボランティアでありながら自腹を切ってこういう場をつくりたいですっていうようなふうに、この補助金の設計ではなってるんですけども、果たしてそういう形でされる方っていうのがおられるのかな、私自身はなかなか難しいんじゃないかなと思うんですけども、どう思われますか。

○委員長（奥村 忠俊） 柳沢参事。

○UIターン戦略室室長補佐（柳沢 和男） 市のほうから補助金といいますか、委託というふうな形で業務のほうをお願いをするというスキームにはしておりますけれども、もちろん、そのことだけをされるということではなくて、そもそもそういう人とのつながりを持つような場を民間としてつくりたいというふうなところに、この事業も一緒に乗せていくというふうなイメージですので、補助金だけでやっていくというふうなことではなくて、そもそも核となる事業展開があって、その上にこういう機能を一緒にしていただくと、その場というのが、いわゆ

るサードプレイスというふうな機能を発揮できるというような仕組みとして考えてるところですので、市の補助金だけで物事を全て完結してもらおうという意味ではないというふうにご理解をいただきたいと思えます。

○委員長（奥村 忠俊） 清水委員。

○委員（清水 寛） そしたら、これの捉え方、私のちょっと間違ってたらまた訂正してほしいんですけども、例えば自分で起業をする方、例えば喫茶店なり、そういう、宿泊施設なりをつくられる、そういう場合に、こういうサードプレイスという機能を付加してもらえませんかというようなことで、この補助金もこういうのがありますよというような、例えばそういったスキームで紹介をされるというような形になるんでしょうか。

○委員長（奥村 忠俊） 柳沢参事。

○UIターン戦略室室長補佐（柳沢 和男） 予算書にもありますように、補助金で出すということではなくて業務委託として出しますので、市としましては、サードプレイスと言われる機能を業務委託というんですかね、その場につくっていただきたいということなんですけど、そもそも何も無いところにそういう機能をつくる、できるということになりませんので、民間の方が、先ほど言いましたような核となるような事業を展開する中で、このサードプレイスという事業も一緒にやれば効果的になるというようなストーリーで考えてるところでございますので、委託ですので公募をさせていただいて、受託者を決定をしていくというふうなことを想定しておりますけれども、そもそもその前段で、自分たちで何らかの事業をされてると、その場がこういうことに相ふさわしい、それも一緒にできるというふうな状況があつての取り組みだというふうにご理解をいただきたいと思えます。

○委員長（奥村 忠俊） 清水委員。

○委員（清水 寛） そういう意味では、一番最初、冒頭に、人ありきかなというようなことを言わせてもらったんですけども、ある程度、そうしたら、市のほうとしてはモデルというか、こういうところが

受けてほしいよなというのも想定した上で、こういう事業を今回はつくった上で、そういうところに、今回こういう形のものをしますんで、よければ手を挙げてくださいというようなお声かけをされていくということなんでしょうか。それとも、もう全くフリーで、当然公募なんですけども、何も、ホームページでぼんと出して、そういう形のものっていうふうになるんでしょうか。

○委員長（奥村 忠俊） どうぞ。

○UIターン戦略室室長補佐（柳沢 和男） 先ほども言いましたように、これまで市のほうで移住定住の施策を進めている中で、いろいろと協力者といえますか、お手伝いをいただいたり、お力を出していただく民間の方がいらっしゃるという事実がありますので、そういった方たちの中には、町の中であつなかりを持つような事業をやっていきたいというふうに思っている方もいるように聞いております。ですので、そういった方たちが自分たちの事業をされてくるという流れの中で、こういったものを一緒にしてもらええる可能性はあるなというふうには思っておりますけれども、どういうふうな機能をサードプレイスとして持ってもらうかという業務委託を提案をさせていただいて、公募という形でそこに応じてもらえるならば、そういう可能性はあるというふうに思っています。

○委員長（奥村 忠俊） よろしいですか。

○委員（清水 寛） はい、いいです。

○委員長（奥村 忠俊） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） 何点かあります。まずは、これに関係あるやつで、今年度以外で取りやめた事業等々がありますか。そして、その取りやめた理由なんかをちょっと教えていただきたいというふうに思います。

それともう1点、今は国のほうも外国人受け入れ等々が非常に対応しておられますけれども、かばん産業等々、やっぱり豊岡市にも製造業がありますので、外国人の受け入れ、もし移住等の中での対策並びに支援等々があるのかないのか、そのあたりちょっと教えてください。

○委員長（奥村 忠俊） どうぞ、お願いします。

○政策調整課長補佐（井上 靖彦） 先ほどの取りやめた、30年度に実施していて、31年度に予算化してなかったという事業につきましては何点かございまして、例えば25歳同窓会ですとか、空き店舗の開業支援でありますとか、あるいは稽古堂塾ですとか、Iターン就業者のシェアハウス整備促進等がございます。これも国の交付金が30年度で終わるといものが、いろんな事業を組み合わせると国へは申請していますが、6事業中2事業が国の交付金が当たらなくなります、31年度から。よって、事業の見直し等を行いまして、関係各課でその実績等も踏まえて取りやめたり、あるいは、例えば空き店舗の開業支援でありましたら、内発型の補助金のほうに移行させるというようなところで事業が変わってきております。

○委員長（奥村 忠俊） もう一つ、外国人労働者。上田部長。

○環境経済部長（上田 篤） 外国人労働者につきましてお答えします。

改正入管難民法が4月に改正されて、従来の技能実習生に加えて特定技能という、こちら、労働者として入ってこられるということで、国のほうでもいろんな、例えばそういう相談窓口を都道府県にそれぞれ設置したりとかという動きがございます。ところが、今回の場合、今までの技能実習生であれば、企業を転職したりとか、なかなかあつせんされる団体から特定の企業にずっと送り込むということが多かったんですが、今回の場合、特定技能の場合は、その企業を転職するというのも可能になります。そうした場合には、都市部の企業を選ぶのか地方の企業を選ぶのかというあたりは、これ4月になってみないと具体的にちょっとわからないんですけど、市として、じゃあどういふふうな支援をするのかという部分は、この本会議の中でも政策調整部長のほうからお答えしましたように、まず、暮らしの部分の支援については、市内の2つの団体、NPO法人と国際交流協会の2つの団体で、日本語教室であったりとか相談窓口を設けてますので、それを受け入れ

される企業に対してはどんどん紹介していく、マッチングしていくということ。それと、市役所の中にも2階の秘書広報課の中に、多言語で対応する窓口がございますので、そちらのほうも紹介していくということで、まず、豊岡市内の企業で働かれる外国人の方の暮らしの部分でサポートという部分に力を入れていくということになるのかなというふうに考えてます。

○委員長(奥村 忠俊) 田中委員。

○委員(田中藤一郎) 空き店舗のほうですけれども、やはり大事な部分であるというふうに思います。変えられたというふうな形ですけど、金額的にはどうなんでしょうか。

○環境経済部長(上田 篤) 委員長。

○委員長(奥村 忠俊) はい。

○環境経済部長(上田 篤) 空き店舗につきましては、ステップアップ補助金ということでほかの補助とかを全部統合して1つの補助金に組み直したんですが、基本的には補助率は2分の1で、上限は150万円ということがございます。逆に、空き店舗ではなくて、40歳未満の若者と女性に対する創業支援につきましては、従来の50万円の上限、2分の1補助を、100万円上限の2分の1ということで、上限額を上げたということがございます。

○委員長(奥村 忠俊) 田中委員。

○委員(田中藤一郎) 起業のほうですけど、私の同級生でも50歳から起業されたりとかいうふうなところがあったりなんかしますので、そのあたりの年齢は、逆にこっちに帰ってこられる場合なんかは少し幅広く持っていた方がいいのかなというふうに思います。

そして、2つ目の外国人のほうの受け入れですけれども、いろんな企業の方とお話をしたりだとか、これまでの経緯の中で、やはり賃金等々が横つながりで、かなり携帯電話等々もつながって、あっち行ったりこっち行ったり、情報を集めたりだとかいうふうな部分で、暮らしもそうですけれども、やはりその賃金の差、兵庫県内ではやっぱり南と北部、最低賃金は一緒ですけれども、実質的には非常にやは

り豊岡側といいましょうか、そっちのほうは不利な体制であるので、どうしてもそっち側に人がとれられてしまうという可能性が出てくるので、やはりそういったところでは企業と相談があったり、また、企業との聞き取りといいましょうか、そういうふうなことが非常に大事だというふうに思うんですけども、そのあたりはやっておられますか。

○委員長(奥村 忠俊) 上田部長。

○環境経済部長(上田 篤) 新年度の予算案の中に、現在の政策調整部の戦略的政策室で、外国人の労働者について、市内で今、実際暮らしておられる外国人を対象として、いろんな暮らしであるとか仕事の関係とかの調査に係る経費というのを上げておまして、新年度、そちらのテーマで研究もしていきますんで、そこでちょっと明らかにしていくということとあわせて、例えば商工会さんとか商工会議所さんとか、あと市で工業会の事務局を持つてるんですけど、そちらの会員さんに対しても、そういう情報を、環境経済部としてもちょっと集めていきたいというふうに考えてます。

○委員長(奥村 忠俊) 田中委員、どうぞ。

○委員(田中藤一郎) そのあたり、非常に生の声といいましょうか、企業と労働者の意見が合致してないと、何ぼいい施策を考えても、やはりそこは経営ができなくなる。要は外国人の移住というものもあるんですけども、やはり市内の経済力が落ち込んでしまう可能性があるのと、出雲市なんかは外国人の移住が1,900人来て、逆に日本人といいましょうか、こちらのほうが1,500人ほど減って、要は外国人が移住をしてきたおかげで人口のほうがあ

えてるだとかいうふうなところで、ちょっとこれまでの感覚でいうと、若者、日本人向けの施策があるんですけども、やはりちょっと考え方を少し変えていかないと、時代から取り残されてしまう可能性があるのかなというふうに思います。

それと、もう1点、台湾なんかはかなり労働者のあれを緩めて、これまで岡山のどこかちょっと忘れましたが、そちらのほうのベトナム人だとかが、

逆に台湾に吸い取られちゃって、行政のほう結構力を入れていきながら、受け入れ先を探しながら、その対策とられている。要は本当に国内ばかりの日本人向けも含めながら海外の労働者、移住者等々も、これからの中ではしっかりと考えていただきたいなというふうに思います。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 土生田部長。

○政策調整部長（土生田 哉） 私ども、今、市のほうで考えておりますのは、新年度では、議会でもお答えしましたように、ざっと700人超の方が、今、市内在住の外国人の方がいらっしゃいます。労働施策というよりも、その方々との共生ということを視野に入れまして、今のところ、想定では700名の方全員にアンケート調査を実施したい、それから、ヒアリング調査はそのうちの1割、70名の方に生活実態のヒアリングを行いたい、それから、外国人を受け入れられている事業所のほう、こちらも想定で300社ほどあろうということで、それらへのアンケート調査、それから、そのうちの1割の事業所、30社に対してのヒアリング調査を行いたいということで、新年度予算化をしております。その中で、多文化共生という部分もございますけども、事業所としての実態のほうも把握に努めていきたいと、このように考えております。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） そういった場合、例えば受け入れする場合に、言葉悪いですけども、人口が減っているところにそういう支援を、住宅地を用意してあげて、そこの生活を、人口減少している部分に人を住まわせてもらって、通ってもらうだとかいうふうな施策も考え、いろんな施策が考えられると思いますので、そういうふうなところで、弱っている部分の地域をカバーし合っとかいう柔軟な発想も持っていただきたいなというふうに思います。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 答弁はよろしいですか。

○委員（田中藤一郎） はい、大丈夫です。

○委員長（奥村 忠俊） わかりました。

ほかにどうぞ、ありましたら。

伊藤委員、どうぞ。

○委員（伊藤 仁） 地方創生総合戦略ということで人口減少に立ち向かうためにいろんな施策を打っていただいております。今、第四弾が、今進められておられます。将来人口なんですけども、推計よりも2040年5万8,000人を6万人に目標設定された、2060年には3万8,000人まで落ち込むだろうと言われているのを、プラス1万人で目標設定されている。これまでに打ってきた成果は出てるのか、出ないのか、今、途中段階で、現在どれだけの数値目標を持って、結果は出てるのか、出ないのか、そのあたりをお聞かせください。

それと、豊岡市ワークイノベーション推進会議というのが、今設立されておられます。業者っていうのは16社とは書いてあるんですけど、僕ら、その16社、私自身ちょっとわからないので教えてほしいのと、立ち上げてから何カ月も、半年ほどたつわけですから、いろんな会議をされてるとは思うんですけども、どのような内容で進められていて、今現時点でどうなのか、どのような今、協議がされているのか、そのあたりも教えてやってください。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 永井課長。

○政策調整課長（永井 義久） 総合戦略の成果ということでございますけども、5年の総合戦略になっておりますので、基本的には国勢調査の数字を待つ必要がございますが、毎年、総合戦略会議の中で、現段階の進捗状況というものを報告させていただいております。これは、総合戦略の第4班にもございますけども、例えば移住定住に係る戦略の、暮らすなら豊岡と考え、定住する若者がふえているということなんですけども、住基の転入と転出の差でもって、まず毎年、動きを見ていこうという数字でございます。基準値が、当初313の、転入よりも転出が上回っている、マイナス状態が313ですけども、172という数字でございます。ですから、基準値よりも大幅に改善してきて、目標値が281ですので、昨年の状況では大きくいい方向に向かっているという状況です。ですが、住基の動きですので、こ

れ、毎年いろんな要素があつて変わってくるころがございまして、ある程度複数年を見ないとちょっとわかりにくいところがあるかなというふうにも思っています。

もう一つは、結婚支援と出産応援に関する戦略というところで、出生数と合計特殊出生率でございまして。こちらにつきましては、基準値が595に対して、目標650ということで、出生数を掲げておりますけれども、こちらのほうにつきましては、昨年、2017の実績値で585ですから、基準値よりも下がってきております。下がってきておりますということは、出生数少ないということです。目標からちょっと遠ざかっておるといふ状況にあります。

それから、合計特殊出生率につきましては、5年間のベイズ推定値といひまして、豊岡だけじゃなくて周辺地域の出生数も含めた平均で見るといふような数値が、予定ではこの3月か4月に全国の数字が公表されるということになっておりますので、昨年の戦略会議の中でも実績の確認はできておりません。今年度につきましては、状況のご報告ができるかなと思っております。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 伊藤仁君。

○委員（伊藤 仁） 目標は持ってますか。

○O I ターン戦略室主幹（若森 洋崇） ワークイノベーション推進会議についてご説明いたします。

16社、どこの会社かというご質問だったと思います。アルパスタジオさん、ウノフクさん、暮らしの学校の～らさん、但馬銀行さん、但馬信用金庫さん、株式会社谷垣、株式会社谷垣工業、ここは1つで入っておられます。あと、中田工芸さん、西村屋さん、東海バネ工業さん、東豊精工、朋友会さん、社会福祉法人です。北星社さん、山本屋さん、由利さん、ソーシャルデザインレガッセさん、あと豊岡市役所も入れていただいておって、これで16社でございます。

もう一つ、どのような活動をということでした。10月23日に設立されて、そのときに経営者の皆さん、お集まりになって、どんな課題があつて、どんなことに取り組んでいるのか、また、今後、どん

なことに取り組んでいこうと思つているのか、要は課題と改善策の検討のワークショップをされました。あと、その後、1月の30日に事例共有会を開催されました。具体的には、東海バネ工業さんがどんな取り組みをされるのかということのを皆さんで共有をしてということでした。あと、4月に入りましてから、会員の企業の見学会を、今検討をしております。あわせて育休とかをとられる方に対して、管理職とか経営者はどうやって接したらいいのつていふふうなことをメールマガジンで受け取るというサービスを、リクルートさんが運営されてるんですけど、無料なんですけれども、それを会員企業に広めていこうといったような活動をされていまして。以上です。

○委員（伊藤 仁） よろしいですか。

○委員長（奥村 忠俊） 伊藤委員。

○委員（伊藤 仁） 豊岡市ワークイノベーション推進会議ということで、各企業の努力されていることを話し合いながら、取り入れていけるもんはいこうよつていふスタンスなのか、最終目標はどこに置いての推進会議をされているんかということをお答えください。

そして、総合戦略のほうにつきましては、一応目標があつて、単年度単年度、評価ができるという体制だけは今後も持っていたきたいというふうに思っております。以上です。

○O I ターン戦略室主幹（若森 洋崇） まず先に、最終目標ですけれども、ワークイノベーションの戦略のほうで、戦略の目指す型のところのKPIで、女性従業員の3分の2以上が、うちの事業所は働きがいがあつて、働きやすいよねというふうなことを、そういった事業所をふやすというのを目標にしています。なので、ワークイノベーション推進会議の会員の事業所が、まずそこになろうというふうなことを目標、まず自分たちが市内の事業所の中で先陣を切ってやっついていこうというふうなことを目標にしております。目標値が2027年度50社でございますので、まず、今の16事業所の中で、そこになつていこうというふうなことを目標にしてお

ります。

やり方ですけれども、今、議員おっしゃいますように、まず、中でやってることについて、それぞれいいことをやってたら、それを各社共有して取り入れようというふうなことにも取り組んでおられますし、また、それ以外の先進的な事例についても、外の事例も取り入れていこうというふうなことを考えておられます。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 伊藤委員。

○委員（伊藤 仁） そのワークイノベーション戦略室ですけれども、現在は女性の方が働きがいを感じている会社はゼロだという認識でよろしいですか、今現在。

○委員長（奥村 忠俊） どうぞ。

○UIターン戦略室係長（若森 洋崇） ちょっとそこはまだ確認をしてないので、かなり少ないとは思っておりますが、ゼロかどうかということのはつきり申し上げられないです。以上です。

○委員（伊藤 仁） いいです。

○委員長（奥村 忠俊） ちょっとなかなか難しい。ゼロかどうかいうことは。よろしいでしょうか。

それで、あとどうでしょうか。

○委員（嶋崎 宏之） ちょっとよろしいですか。

○委員長（奥村 忠俊） はい。

○委員（嶋崎 宏之） 6ページなんですけど、1番のは一とピーの件なんですけれども、確かに人気があって、何かしらやられて、たくさんの定員どおりに集められて、そこでいろいろ話をされて、ただ、悲しいかなカップル成立するのは3、4組だと。その後の成婚というのは、今まで、過去には1組もなしだったんかどうか、何組かあったのか、その辺のちょっと実態がわかれば教えてください。

○委員長（奥村 忠俊） 答弁をお願いします。

○ハートリーフ戦略室長（久保川伸幸） 婚活イベントのは一とピー自体での成婚ですけども、実際には一とピーの事業をいつしたかということと、結婚にいつ至ったかというのは当然時点が変わってくると思いますので、私どもが把握しているので、成婚の報告をいただいた年度ですけども、平成27年

に4組、平成28年に3組、平成29年に7組、3年間だけでも14組の方が、この事業に参加して結婚に至ったということです。

○委員（嶋崎 宏之） それと、続いてちょっとお尋ねします。

○委員長（奥村 忠俊） どうぞ、嶋崎委員。

○委員（嶋崎 宏之） あれは、3カ月に1回ぐらいか4カ月に1回ぐらいか、は一とピーっていうのは、出会いの場の創出されてたと思うんですけれども、そういうちょっと小耳に挟んだんでは、大体出席者が似通ってくるのか、そういうふうな話があったかどうか、それは当然、結婚できるまで何回も出ていただいたらいいんだけど、その辺が変なマニエックなところになってないかどうかっていうことがちょっと心配だったのと、それから、縁結びさんっていう制度がありますよね。結婚していただいたら3万円の謝礼が出るとかいうふうな、その辺との縁結びさんとは一とピーとの絡みっていうのは、何か今まで連携されてるようなことってあったんでしょうか。

○委員長（奥村 忠俊） 三宅室長補佐。

○ハートリーフ戦略室室長補佐（三宅 徹） 先ほどのご質問、開催イベントの頻度ですけれども、基本的には毎月1回開催しております。その参加する方が、また来ると同じ人と当たってしまうということはないのかというご質問ですが、これは補助事業で、名簿をこちらは頂戴しておりませんので、詳しいメンバーは承知しておりません。しかしながら、聞いてる中では、そこはそれほどかぶりがないようになってると聞いておりますので、まあのうわさはわかりませんが、実際としては、それほどまた同じ人ばかりということはないように聞いております。

それから、最後のご質問ですが、縁結びさんとは一とピーとの連携ですが、現在のところ、そのような事業は開催しておりません。新年度からは、は一とピーが市で主催ということになりますので、またその連携もこれから検討していきたいと考えております。

○委員（嶋崎 宏之） はい、わかりました。

○委員長（奥村 忠俊） よろしいですか。

嶋崎委員。

○委員（嶋崎 宏之） 済みませんね。県がやってる、但馬長寿の郷で同じような婚活交流やってますけれども、あそこの話を聞くと、結構何か成約率が高そうな話で伝わってきておりますけれども、歴史もあるから1,000組超えてるような話を聞いたりとかしてるけど、本当かどうか定かではありません、データとってないから。もう一つ、スマホで簡単に何か見れる、簡単になって言ったらおかしいけど、婚活アプリみたいなのが、結構あれがまたちまたでは多様化されて、成約に結びついたりなんかしてるっていうふうなこともちょっとお聞きしたんですけども、その辺の実態を、実態っていうのはわからんでしょうけど、そういった話っていうのは特段聞かれてるかどうか。

○ハートリーフ戦略室室長補佐（三宅 徹） 兵庫県のほうは、おっしゃるとおり出会いサポートセンターという事業がございまして、こちらのほうでは、相当な数、成婚に至ってるということ聞いております。しかしながら、但馬の中でいうとそれほど多くの数、あるいは成婚率も高いということではないということで、県からは話を聞いております。県全体でいくと相当大きな数になりますけれども、但馬だけで申し上げると、細かい数字は承知しておりませんが、それほど目立った数字ではないと。なかなか向こうも苦戦しながら、一生懸命検討されて頑張っておられるという状況だということ聞いております。

それから、続いて婚活アプリのことですけれども、やはりこれはちまたでは大変評判になっていたりしまして、とても人気があるものもあるというふうに聞いております。婚活アプリの特徴としましては、インターネット上で登録することができる、それから、運営会社にもよりますが、非常に簡単な手続で登録できて、そして、スマホによって、相手の顔写真やプロフィールなどが閲覧できるというふうな利点があります。そういった気軽さがうけて

るので、そういったものを利用される独身の方もおられるというふうに聞いております。

ただ、一方では、そのような手軽な出会いを奨励しているものですから、そこに来られる方、独身の方の結婚に対する熱意と申しますか目的が、温度差がいろいろあるというのも現実だというふうに聞いております。本当に結婚を目的として加入されて、出会いを求めておられる方もあれば、少しそういった結婚とは違うような動機で、もっと言えば、恋人とかもう少し軽い出会いを求めている方もあるというふうに聞いておりますので、全体としては結婚に結びつく確率としてはそれほど高くないというふうにこちらのほうでは思っております。

そういったことを踏まえると、やはりもう少し結婚の意欲の高い集まり、具体的には婚活イベント、あるいはもっと一対一でお見合い形式で会うような、こちら豊岡市で行っている縁結びさんですとか、社会福祉協議会で行っているような結婚相談所事業のほう成婚率は高くなるのではないかとということで、こういったものを推し進めているところでございます。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） そのほかどうでしょうか。足田委員、どうぞ。

○委員（足田 仁司） ジェンダーギャップ解消推進、ワークイノベーション推進、この辺で企業に入って、女性が活躍しやすい、働きがいのある職場づくりをいろいろとレクチャーというんですか、経営者なり担当部署の社員の方に学んでいただいて、会社の中の雰囲気づくりとか組織のありようを改善してもらおうと。だとしたら、意識改革をしてもらうのは、やっぱり経営層のほうだろうと思いますし、それが企業にどのぐらい定着することを想定されてるのか、何社ぐらいを扱うのか、これ一回聞いたような気もしますが、改めてお尋ねします。

○委員長（奥村 忠俊） 若森さん。

○UIターン戦略室主幹（若森 洋崇） 議員おっしゃいますように、まず経営者の方からだろうというふうに思っております。そこから人事であったり、管理職であったり、各職場のほうにどんどん

ん腹落ちが進んでいけばいいなというふうに思っているところです。

定着の想定とおっしゃいましたでしょうか。

○委員長（奥村 忠俊） 足田さん、どうです。

○委員（足田 仁司） その企業の企業風土とか文化みたいなものがそれぞれ違うと思うんですよね。それなりに、そこで女性が働きやすい、活躍しやすい雰囲気づくりだとか、いろいろ制度的なものも含めて、それが定着しないとあんまり意味がないんでないかなと、その辺をどういうふうに見きわめられるのかなというのがちょっと気になってお尋ねしました。

○委員長（奥村 忠俊） 若森さん。

○UIターン戦略室係長（若森 洋崇） おっしゃるように定着しないと意味がございません。実は、前回、12月のこの委員会の後、先ほどのワークイノベーション推進会議の皆さん、事業者の皆さんを中心にお話を聞いて回ったんですけども、そのうち5社は、もう32年度には表彰される事業者になるように、もう取り組みを進めるというふうにおっしゃっておられます。

○委員長（奥村 忠俊） 足田委員。

○委員（足田 仁司） わかりました。もう1点、はーとピーの関連になると思いますけど、先ほど伊藤委員から言われた、結婚したけど今はシングルで暮らしてる、もしくは子供さんもいるとかいう方、これ、本会議でもちょっと突っ込んだんですけど、今、相対的貧困率が、母子家庭が極端に悪い。その方たちが再婚すれば、2人大人がいる世帯の相対的貧困率はぐっと改善するんです。そのあたりも考えると、本当は、本来ははーとピーの位置づけは20代、40歳代としたら、多分子供が産める、人口増につなげるというのは結構大きい位置づけだろうと思いますけど、先ほどのお話、余り人口増には直接つながらないけども、豊岡市の底上げにつながるような感じがしますので、50代、何歳までいるかわかりませんが、そういう方も含めて、いろんな世代の出会いの場をつくっていくっていうのも大事じゃないかなと思うので、その辺のお考えをお尋ね

します。

○委員長（奥村 忠俊） 久保川君。

○ハートリーフ戦略室長（久保川伸幸） このB戦略は、あくまで結婚の促進と、結婚促進の思いの後ろには多子出産といいますか、子供がふえていくことをそもそも狙ったのがB戦略。それからすると、例えばですけども、極論になるかもしれませんが、50代、60代の方の結婚を幾ら促進しても、この戦略はつながらないと思ってますので、それはまた別の施策の問題かなと。そうしたときに、先ほどおっしゃいました母子家庭がどうしても所得が低くて、子供の貧困率という部分では課題だと、それはおっしゃるとおりであって、むしろそちらのほうの施策として、それはそれで考えるべき課題であろうというふうに思います。

ただ、それとこの結婚促進というのを結びつけるかということになると、ちょっと今んとこ、そこまでは考えていないと。母子家庭がどうしても所得が低くてという部分の課題の一つには、ちっちゃい子供さんを抱えてられるおうちというのは、養育費を多分受けておられない家庭が多いんじゃないかなというふうに考えています。そこでは、養育費等々のちゃんと補償をしていくような制度もございませので、その辺をそういった対象の方々にも周知をしていって、ちゃんともう一方の連れ合いのほうから、配偶者のほうからそういったものがとれるような取り組みをしていただけるように、そんなことも施策としては周知をしていくというようなことも含めながら、いずれにしても母子家庭の生活困窮の状態を改善していく努力は、それはそれでやっていきたいというふうに思います。

○委員長（奥村 忠俊） 足田委員。

○委員（足田 仁司） わかりました。ぜひとも、願わくば豊岡モデルのようなものがつくれたら、それこそ情報発信できますし、いろんな意味で貧困率も含めて、いろんなカバーにできるんじゃないかなと思いますので、ぜひ頑張ってください。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） よろしいですか。

○委員（足田 仁司） はい。

○委員長（奥村 忠俊） 答弁ありますか。

○委員長（奥村 忠俊） ハートリーフ戦略室長。

○ハートリーフ戦略室長（久保川伸幸） 先ほど、私、結婚促進という言い方をしたかもしれませんが、結婚支援という言い方、変えておりますので、多子出産を支援するのではなくて、応援するという、その辺の言い回しに、済みません。訂正しておきます。

○委員長（奥村 忠俊） それでは、次、どうぞ。
椿野委員。

○委員（椿野 仁司） この委員会、初めて、去年からできて2年目なんだけど、大変な委員会だなというふうに、今ずっとお聞きしとって思いました。どうすればいいのかっていうことが、本当に将来的に見て、近未来に至っても、本当にどうすれば本当にもう解決するのか、この人口減少ということは、私も本当にちょっとまだ何も浮かんでこないんだけど、何でこんなふうになっちゃったのかなというところなんです。我々からすれば、ごく自然のうちに結婚をして、ごく自然のうちに子供を産んで、2人、3人、4人、私、4人ですけど、子供が。今、統計的に見たら、間違ったらいけないんだけど、昨年から93万人ぐらいしか子供が生まれてない。ベビーブームのころは275万人とか280万人という子供たちが生まれてる。今、日本の特殊出生率は1.43というような数字になってますよね。フランスだとかドイツだとか、あの辺はみんな2っていう数字なんだけども、私が言いたいのは、さっき足田仁司議員が言っとられたんだけど、豊岡モデル、いわゆる豊岡っていうか、日本が、今日、たまたま全く人口モデルとは関係ない、生活排水処理改革という本が、今日、私たちに配られて見とったら、フランスは人口減少対策を国を挙げて徹底してやってきたと。子供を産むための対策に力を入れてきたということ。豊岡で、じゃあ子供を産むためにはどういうことをしていかなきゃいけないのかなというところ辺を、今までは支援とか子育てとかっていうようなところに力を入れてきたんだけど、そうではなくて、もう徹底的に子供を産むと、産んでもらうということ、いかなる方法を使ってもや

るんだという政策をやっぱり立ち上げていかないと、でないと無理なのではないのかな。きょうは、もうすぐご卒業される政策調整部長と環境経済部長おられるから、お二人ね、ミクロとマクロというレベルでいくと、どっちがミクロかマクロかって、それはお二人がお考えになっていただいたらいいんですけども、要は、さっき伊藤仁議員もちょっと話したんだけど、20年、40年後、30年、40年先、人口があなたたちの数字でいくと、人口推移からいくと、さっき言いました6万人を割る、そしてまた3万人台になる、それを何とか歯どめをしたい、その気持ちはわかる。でも、できなかったときに、想像してみてください。40年後に今の人口が3万人台になって、この豊岡市がどうなるんですか。私にはちょっとよくわからない。いわゆる財政が、今の借金もずっとこれから先、子や孫にずっと市の財産を、借金を抱えながら、そしてまた、今、人口がこれでさえも大変なのに、これから先、半分になったときに、じゃあこの市を支えていく人たちは、子供たちは、本当に当時、今、これから先の子供たちだけ、本当にどうするのかな、想像が僕にはできないですけど。

だから、何が言いたいかという、この人口減少対策というものは大変な委員会だなと、私は本当に思うんです。奥村委員長もいつも、副委員長の上田副委員長も、頭2人で、正副委員長で何しよう、どないしようと、本当に困ったな、困ったなとっていうことを言っておられるんですけど、いや、確かにそうだと思う。豊岡市も本当に一生懸命よくやってくれてると思いますよ、いろんな対策を考えて。でもね、一番の本当に自分たちが覚悟というか、一番危機を感じなきゃいけないのは、私は市民だと思う。これから生きていく人たちだと思う。特に、15歳から、今49歳というのは特殊出生率の対象人員だけど、さっき言っておられたように、再婚、再々婚、構わない。この人たちが、例えばいい人とめぐり会って家庭を持って、また新たに子供つくってくれる。どんなことが過去にあったかは知りません。男性が悪いのか女性が悪いのか、経済的な問題なのか私に

はわからないけど、でも、いかなる方法をもってしてもそれをやっぱり突破していかないと、ていうか、具体的にそういった豊岡モデルなり、そういった新しい政策をやっていかないと、私はこっぴどく一生懸命いろんなプランやいろんなことを考えていただいて、本当に僕はすばらしいと思うんだけど、でも、一番、それを受けとめて実行する市民がやってくれないと、文字や数字では子供は産めませんよ。だから、何が言いたい。お二人に聞きたい、もうご卒業されますから。20年、これから近未来も含めて、一体どういうふうな豊岡市になるか、私には想像ができないので、あなたたちもプロだから、特に財政政策調整部長、財政の面でも、今まで本当に苦勞なされたと思うし、片方は大交流で頑張ってきた、お二人に1つずつご質問をしますので、よろしくお答えいただきたいと思います。

○委員長（奥村 忠俊） 土生田部長。

○政策調整部長（土生田 哉） 今おっしゃったように、逆に人口減少で10年、20年待たずに、かつてあった1つの自治体がどんどん消えていく。例えば旧の城崎町であれば3,800人です。当時、竹野であれば、今でも5,000人弱、これが数年先には消えていく、地域が消失していくという、この実感が、逆に行政職員もあえて多くを語ろうとしておりません。それから、市民の方々も自分の周りから、何千人という人が消えるということの切迫感を持っていらっしゃらないというのが、これが多分一番の問題であろう。間近に迫っている危機を、あえて気づかない振りをしてまだ過ごしてしまうという。私の家も、実は平成8年に家を新築しました。そのときには、いずれ使うだろうと思って、続きの間というのをつくっております。これは、ただ今の社会経済情勢を考えますと、うちの家で葬式をすることは多分もうないだろうし、法事をすることも多分ないだろう。我が家庭でさえ、10数年前、20年前にこの現実が見きわめられてなかった。多くの方々は今住宅ローン抱えてる方って、多分この暮らし向きをまだされていると思います。これと同じことが今、全国の自治体で起こっている。要は、将来

を見据えた施設整備になっていないはずだと思うんです。合併をしたことによって、公共施設のマネジメントで、今まで議員の皆さんにもお願いしてきました。お話をさせていただいたときに、市にものが多過ぎる、けども、市民の方々は、今あるものは将来もあり続けるべきだという議論になってしまう。ただ、自分たちが納税者としてそれを支えているという意識が、どうしても行政側も市民側も希薄になりつつある。自分たちが将来も当事者であるという、その責任がお互いにまだ理解しきれていないのかな。私自身もこれからもまだまだ勉強しなくてはいけないと思うんですけども、将来、間近に迫っている危機を、いかに具体的に市民の方々と共有していくのかというのが、これからもまだ課題であるのかなど。本当に町が消えた事実、もう既に合併後において、どれだけの町が消えたのか。旧町単位であれば、例えば竹野が消えたというのはもうあからさまに出て、国勢調査人口であればもうはっきりしている現実なんですけれども、ただ、それがまばらに消えているから目立っていない。1カ所、ぽんと抜けていけば、地図の中でそこんと見えなくなりますからはっきりわかるんですけども、見えていない。いかに見えるようにしていくかというのが、これからもまだ引き続きの課題であるのかなというふうな考え方をしております。

お答えになっているのかどうかちょっとわかりかねるんですけども、いかに危機感を共有してお伝えしていくのかということが、議員のご質問でコンパクトシティというお話もいただいた経験もございまして。その部分も、これからもまだ検討課題、いかにしてコストをかけずに維持していくのかというところ辺だろうというふうに考えております。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 上田部長。

○環境経済部長（上田 篤） いい機会を与えていただきましてありがとうございます。

大交流とかいろいろと担当してきたんですけど、ちょっと私、30年ほど前、合併前、旧豊岡市の市役所のほうで企画にございまして、そのときに総合計

画を何回か、2回か3回ぐらいつくりました。そのときの将来推計人口っていうの全部右肩上がり、これだけふえますよっていうのをやった、でも、そのころのことを考えるとすごく反省をいたしております。もっとやっぱり早くこの人口減少のことをもっともときちんと分析をして、もっともっと早目に、まだ国とかがわあわあ言う前に、やっぱり豊岡市、人口減少対策の根本のところに手をつけるべきだったかなっていうふうに思ってます。

今、戦略Aのほうで、社会増減のほうを担当させていただいてるんですけど、本当に人口減少というのはもうこれは避けられないんで、あとは、どれだけそれを減速させるかということと、減少の幅っていうのをどれだけ少なくするかっていうことに全力を上げるしかないのかなと思ってます。そのときに、先ほど椿野委員もおっしゃいました、やっぱり子供を産んでもらうというための対策ってこれはすごい必要だと思ってます。子供を産んでもらうためにも、今、若い女性、帰ってきてないということは、男性が帰ってきてくれるんで、若い男性がふえて、女性が少ないとなると、よりまた未婚率というのが上がってしまう可能性があるんで、そこを何とか若い女性に帰ってきてもらって、未婚率を少しでもちょっと下げることができたらなというふうに。それによって、子供が生まれる、産みやすっていう環境とかいえると思うんですけど、そこにちょっとは注力していく必要があるのかなと思っております。

それで、我々は今、ワークイノベーション戦略ということで、特に若い女性が帰ってきてもらうためにも、その女性が働きやすくて、働きがいがある職場っていうのをつくって行って、そこで、それを地域とか家庭にも波及させていこうということで力を入れてるんですけど、これもあくまで仮説ということで立ててやっておりますんで、もうこれはきちんと仮説は立てたら立てっ放しじゃなくて、PDCAっていうんですか、ちゃんとチェックもきちんとしながら、また、対象者の方を初め、事業所の経営者の方とか、人事の方の意見も十分聞きながら、チェックをしながらPDCAを回して、補正する部分

は補正しながら、何とか若い子に帰ってきてもらう、帰ってきてもらえる本当に真の住みやすいというか、豊岡市になるための努力っていうのは続けていこうと思っております。

年齢がこの年ですんで、ちょっと戦略Bのほうで、多子出産とかはちょっとなかなか、もう能力的にも厳しいございますんで、今、私ちょうど親戚とか知り合い、豊岡出身で都市部で働いてる子にいろいろと声かけて、帰ってこいやと、豊岡ええで、働くところええところあるでっていうのをどんどんどん声かけするようにしておりますし、その親戚とかでも若い夫婦がおったら、ちょっと移住せえへんかという声かけを、今どんどんどんするようにしてますんで、さっき椿野委員もおっしゃいましたように、やっぱり市民の皆さんがやっぱり危機感を持って、例えば声かけをして、まずは、ということというのは必要だと思ってます。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） さすがにご卒業前のすばらしいご答弁をいただきました、ありがとうございます。ただ、本当、20年、30年、40年先に、私たちが想像ができないんだけど、我々はもうそのころに生きてないかもわかんないで、あと知らないよって言ったらおしまいかわかんないけど、それでは我々の今の立場は、責任がとれてない、役割果たしてないということになれば、やっぱり考えること、言うべきことを言う、最大限努力をしたということをやったりあかしを立てなければいけないのかなというふうに思います。

市長自身もこのことについては、本当だったらもっとも早く気づけばよかったっていう、あの賢い市長ですら、最後、そういうことを今ごろ言ってるという状況は、我々も本当に肌で感じなきやいけないのかなというふうに思います。

あとは、行政がそこまでやるかというぐらい奇想天外なウルトラCでもBでも構へんから、思い切った政策をこれから、議員も我々も勉強して、やっぱりやるべきではないかなというふうに思います。

いろいろとご苦労さんですが、頑張ってください。

○委員長（奥村 忠俊） 答弁よろしいか。

○委員（椿野 仁司） はい。

○委員長（奥村 忠俊） それでは、どうでしょうか、もうよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（奥村 忠俊） それでは、ほかにありませんので、以上で協議事項については終わりたいと思います。

それでは、今年度末をもってご退職されます土生田政策調整部長、それから上田篤環境経済部長、長い間、お疲れさまでございました。

一言ずつ、ご挨拶をいただけたらと思いますので、よろしく。

そしたら、早速、土生田政策部長。

○政策調整部長（土生田 哉） 失礼します。とりあえず今年度末で、一応卒業させていただけることになろうかと思えます。ただ、こちらの委員会、確かに課題が非常に大きくて、それから、今まで誰も手をつけてこなかった部分、それから、現実にも目を向けなくてはならないと、今まで気づいていても誰もしゃべらなかつたことを、お互いにしゃべらねばならないという、そういう機会を与えていただきました。大変ありがとうございました。こちらのほうで勉強させていただいたことというのが、私、戦略AもBも多分役に立ちます。これから、また私も、残ったまた後輩が続きます。特に今期の議会から委員会のほうも会議録ということで、お互いに不穏当な発言をしないようにということで、大目に見ていただきたいなというふうに思っております。本日まで、大変ありがとうございました。（拍手）

○委員長（奥村 忠俊） 上田環境経済部長、お願いします。

○環境経済部長（上田 篤） 今、土生田部長のほう私が言いたいようなことを言われましたので、本当に2年間にわたり大変お世話になりました。やっぱり戦略Aのところもそうですけど、さっきの戦略Zぐらいのところまで考えて、何とか自分でもまた知恵を絞りながら、何とか豊岡市の人口減少対策のお役に立てる、引き続き頑張っていきますので、

どうぞよろしくお願いします。本当にありがとうございました。（拍手）

○委員長（奥村 忠俊） ご退職されますけども、ひとつ市のために、地域のために引き続きご指導いただきたいと思えます。どうもありがとうございました。

それでは、当局のほうから、それ以外に発言その他ございましたらお願いしたいんですが、ないようでしたら……。

○委員長（奥村 忠俊） それでは、ないようでございますので、当局の職員の方々は退席していただいて結構です。ご苦労さまでした。

〔当局職員退席〕

午後2時36分休憩

午後2時37分再開

○委員長（奥村 忠俊） 時間が始まりましてから、かなりたちましたんですけども、どうでしょう、休憩をするのか、それとも行ってしまおうか。

○委員（伊藤 仁） あと、何がありますか。

○委員長（奥村 忠俊） あとは管外視察の関係。よろしいか。（「はい」と呼ぶ者あり）

それでは、その他、皆さん方からのご意見、その他ございましたら、お出しいただきたいと思えます。ありませんか。その他、委員会の報告を含めて。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（奥村 忠俊） それでは、次に……。

はい。

○委員（椿野 仁司） 議会広報に、例えば何か載れるようなことがあるんだったら、特集で、この特別委員会の今、いつでもいいんですけど、今度、6月でもそれはいいんですけど、最終的でもいいんですけど、やっぱり豊岡市の今の実情、それから、20年後の、30年、40年後に、将来、近未来にわたっては、こういう状況になってくるところをしっかりと市民に、私は情報を共有してもらえようかなと必要ではないのかなと私は思うんですよ。だから、6月でもいつでもいいですよ、最終の委員会報告でもいいんですけど、ただ、文字にして、

何かこんなことやってきました、あんなことやってきました、特別委員会はこんなことをするのが目的ですってというような、通り一遍のそんなことよりも、もっと市民に、もう本当皆さんにわかってもらえるような、何かそういった情報を流してもらおうのも必要ではないのかなという意見ですので、またご協議いただけたらいいと思います。

○委員長（奥村 忠俊） ありがとうございます。

今のお話でもたこれは時間がありませんので、しっかり煮詰めて、最終的に市民にどうするかということについては本当に急がないとだめだと思うんですね。当局ばっかがされているようになりますので、議会側としてもやっぱりそういう深刻な課題であるわけですし、その点、皆さん、一緒に考えていきたいと思います。

そのほかございませんか。

では、次に進みたいと思います。

管外視察についてでございますけれども、日程が7月の11日の木曜日、12日金曜日で確保していただいております。行き先等については未定でございます。視察項目等、あるいは行き先などについてのご意見をいただきたいと思います。どこかいい、ここに行こうではないかというようなご提案がありましたら。（「7月10……」と呼ぶ者あり）

日にちは7月の11、12。

○委員長（奥村 忠俊） 休憩いたします。

午後2時37分休憩

午後2時47分再開

○委員長（奥村 忠俊） それでは、休憩を閉じて、委員会を再開いたします。

この人口減少対策特別委員会としての視察についての協議をしたいと思いますが、皆さん方のご意見、お願いしたいと思います。

椿野委員。

○委員（椿野 仁司） いろいろとありますけど、最終的には正副委員長と事務局のほうにお任せしたいと思いますが、できれば人口減少で非常に困っている、そしてまた、何とかしたいというふうな、

頑張ってる、頑張ろうとしてる、そういったところがあれば、そういうところを、成功してることよりも、逆に今、そういうことで踏ん張ってるようなところがあれば、そういうところがいいのかなと思いますし。1泊2日でしたら、どちらにしても限られたとこしか行けませんから、遠いとこまで行けませんから、鳥取方面とか島根方面とか、その辺も含めて正副委員長にお任せしたいと思います。

○委員長（奥村 忠俊） 今頑張ってる自治体、いろんな頑張りがああるんですけども、そういったところを研究しながら、椿野委員言われたように、正副委員長でまとめてほしいということでございますが、その方向でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（奥村 忠俊） じゃあそのようにさせていただきます。

それから、もう一つだけお願いしときたいんですけど、こちらで、これ書いたのではありませんけども、せんだって、竹野と但東についていろいろとお話聞かせていただきました。非常に今深刻でありまして、なかなか人口減を食い止めるということにはなりませんけれども、委員会としても地域の実情もやっぱりよく知っておく必要があるのではないかと、いい提案があるわけではありませんけれども、そのことも非常に重要であるというふうに考えております。間もなく新年度が始まりますけども、入った後、正副委員長のほうで日程調整させていただきますので、委員会を開催したいと思います。その点でご理解をいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（奥村 忠俊） ありがとうございます。

そのようにさせていただきます。

それでは、そのほか、発言があるということでありましたらお出しただいたら結構ですけども、どうでしょうか、何かありますか。

事務局。

○事務局主幹（前田 靖子） 次の4月の委員会ですけども、4月の16日に特別委員会ということで、

事務概要の説明を予定しておりますので、よろしく
お願いします。以上です。

- 委員長（奥村 忠俊） 今ありましたように、次回、
新年度に入りました4月16日の日に特別委員会
を……（「9時半から」と呼ぶ者あり）はい、よろ
しいですか。予定いたしておりますので、その点、
ご了承いただきたいと思います。

暫時休憩いたします。

午後2時50分休憩

午後2時58分再開

- 委員長（奥村 忠俊） それでは、休憩を閉じて、
委員会を再開いたします。

先進地視察については、先ほどお話をいただきま
した。

新年度に入った次回の委員会の日程でございま
す。4月の17日9時半からに開催したいと思いま
すが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 委員長（奥村 忠俊） それでは、異議がございま
せんので、次回の委員会は4月の17日9時半から
委員会室で開催したいと思います。ありがとうございます。

では、ほかに発言がございませんので、以上をも
ちまして委員会を閉会したいと思います。よろしい
でしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 委員長（奥村 忠俊） それでは、ご苦労さまでし
た。

午後2時59分閉会
